

環境活動レポート

2016年度

2016年4月—2017年3月

ご挨拶

建築の産業廃棄物の収集運搬、中間処理施設と民間業者では初めて札幌市より許可を取得して以来、リサイクルシステムに微力ながらも貢献すべく努力して参りました。今後も引き続き、『地球環境に貢献する建設現場のサポーター』を合言葉に全社一丸となり積極的に取り組んでいく所存であります。

エコライン株式会社

〒003 - 0869 北海道札幌市白石区川下 641 - 170

TEL 011 - 874 - 0570 FAX 011 - 873 - 2046

E-mail [info@ecoline - kk.co.jp](mailto:info@ecoline-kk.co.jp)

URL [http://www.ecoline - kk.co.jp/](http://www.ecoline-kk.co.jp/)

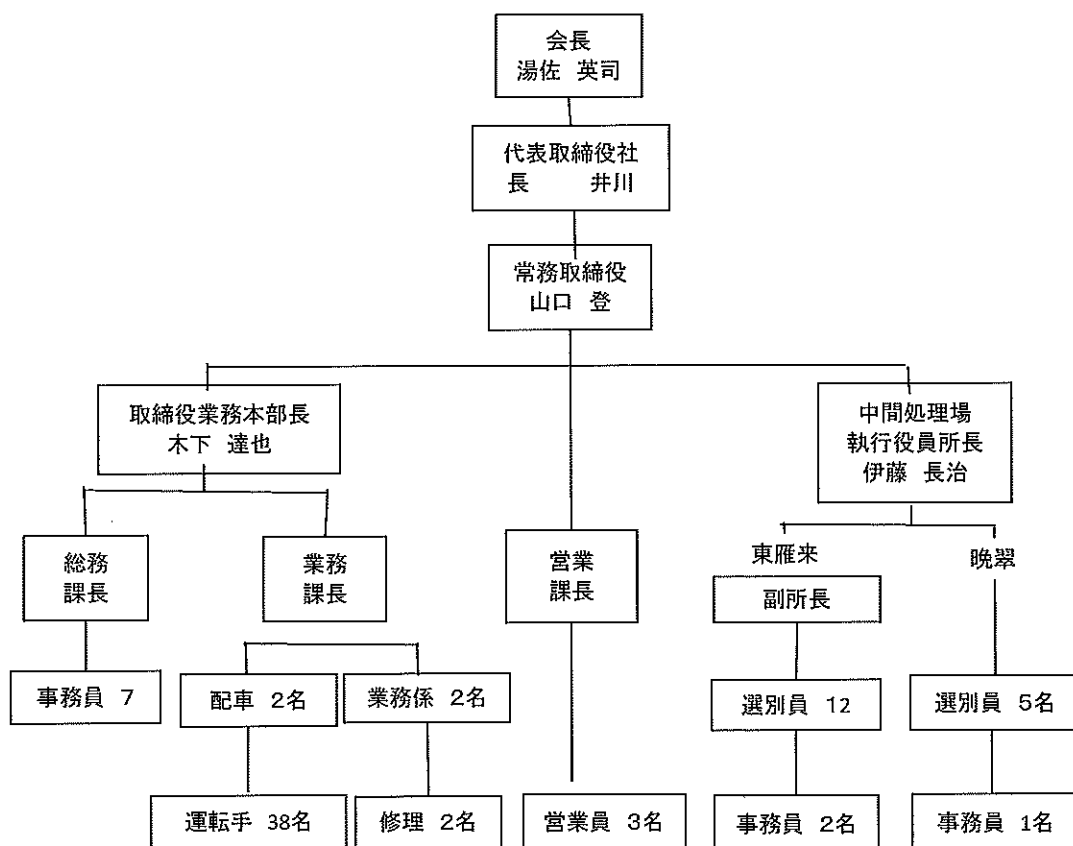
発行日：平成29年5月10日

会社概要	2・3・4・5・6
	別紙1 12
	別紙2 13
1. HES:産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容	7
2. 環境改善活動の取り組み体制	7
3. 環境に関する基本方針	8
4. 環境目標と実績	9
5. 環境改善活動の評価	10
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	10
7. 2016年度活動の評価と今後の課題	11

■ 会社概要

- 会社名：エコライン株式会社
- 所在地：北海道札幌市白石区川下641-170
- 代表者氏名：代表取締役社長 井川 智章
- 事業内容：一般貨物輸送・産業廃棄物の収集運搬及びリサイクル並びに中間処理
- 設立：昭和50年10月24日
- 資本金：60,500,000円
- 売上高：1,048,243,000円
- 従業員数：85名（パート社員 3名含む）
- 敷地面積：本社 15,849.62㎡
東雁来リサイクルセンター 18,604.00㎡
晩翠リサイクルセンター 16,536.20㎡
- 延床面積：本社 486.00㎡
東雁来リサイクルセンター 1,351.00㎡
晩翠リサイクルセンター 3,070.93㎡
- 沿革：
 - 昭和42年 山本 禎男が個人で運送業を開始。
 - 昭和50年10月 運送免許を取得し株式会社に改組。札幌市白石区北郷より白石区川下に本社を移転。
 - 平成12年3月 湯佐英司が社長に就任し北興グループの一員となる。
 - 平成18年3月 山本山運輸(株)、小林運輸(株)が合併し社名をエコライン(株)とし新たなスタートを切る。
 - 平成19年7月 中老田正信が社長に就任する。
 - 平成19年8月 松下運輸(株)より事業譲渡を受け新生エコライン(株)がスタートする。
 - 平成21年6月 建設系産業廃棄物の一般受入開始。
 - 平成26年5月 井川 智章が社長に就任する。
 - 平成28年12月 空知郡南幌町に晩翠リサイクルセンターオープン。

エコライン(株)業務機構図



(1) 事業規模

① 収集運搬業

- ・ 運搬車両の種類と台数：45台（ユニック車31台、パッカー車6台、その他8台）
- ・ 積替保管施設の有無と面積及び保管上限量：有 空知郡南幌町字幌向原野1013番13、面積 34.17㎡、保管上限103.6㎡
- ・ 種類（産業廃棄物）

北海道	燃え殻・泥炭・廃油・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・ばいじん・廃酸・廃アルカリ
-----	---

- ・ 種類（特別管理産業廃棄物）

北海道	廃油・廃酸・廃アルカリ・特別有害産業廃棄物（廃石綿等）
-----	-----------------------------

② 処分業

○東雁来リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：選別、圧縮～廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
- ・処理する産廃の種類：一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く下記の産業廃棄物（工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものに限る。）

圧縮	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
選別	廃油（アスファルト防水材に限る）・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・石膏ボード

- ・処理能力：選別80 t/日、圧縮3.36 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙1）受入⇒手選別⇒搬出先（焼却、破碎、埋め立て）

○晩翠リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：破碎、圧縮

圧縮	廃プラスチック類、紙くず
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

- ・処理能力：圧縮10.9 t/日
- 破碎 廃プラスチック類・42.2 t/日、紙くず・72.3 t/日、木くず・99.4 t/日、繊維くず・21.7 t/日、金属くず・68.1 t/日、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・180.7 t/日、がれき類・184.5 t/日
- 木くず（チップ）・76.0 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙2）受入⇒前処理⇒破碎⇒焼却、埋立、売却

(2) 処理実績

産業廃棄物取扱量 (中間処理)	2014年度		2015年度		2016年度	
	処分実績 単位(t)	割合 (%)	処分実績 単位(t)	割合 (%)	処分実績 単位(t)	割合 (%)
木くず	2749	10	1972	8	1889	8
紙類	446	1	372	1	351	1
金属くず	1089	4	2379	10	2515	11
がれき類	4275	16	3407	14	3016	13

ガラス、コンクリートくず及び 陶磁器くず	5830	22	1985	8	1467	6
石膏ボード	2984	11	2106	9	1500	6
廃プラスチック	5408	20	3415	14	3568	15
その他	21	0	24	0	168	1
残さ	4268	16	8940	36	9056	39
年間中間処理量 (t)	27070	100	24600	100	23530	100

収集運搬 (当社中間処理)	2014 年度		2015 年度		2016 年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)		運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	1891	10	1343	10	1197	8
紙類	307	2	257	2	227	1
金属くず	756	4	1632	4	1597	10
がれき類	2847	16	2289	16	1872	12
ガラス、コンクリートくず及 び陶磁器くず	6763	37	7412	37	7044	45
石膏ボード	2084	11	1443	11	1002	6
廃プラスチック	3662	20	2336	20	2576	17
繊維くず	14	0	13	0	12	0
廃油	0	0	83	0	131	1
収集運搬 (当社中間処理) 計	18324	100	16808	100	15658	100

収集運搬 (運搬のみ) (t)	2014 年度		2015 年度		2016 年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず			367		622	14
紙類			1		26	1
金属くず			5		13	0
がれき類			3868		1873	41
石膏ボード			54	1	109	2
廃プラスチック			77	2	94	2

ガラス陶磁器			61	1	96	2
繊維くず			1	0	0	0
廃油			3	0	0	0
汚泥			348	7	1750	38
その他			21	1	10	0
収集運搬（運搬のみ）計（t）			429	100	4593	100

収集運搬（運搬のみ）（m ³ ）	2014年度	2015年度	2016年度		
廃プラスチック		382	89	155	87
廃油		2	1	3	2
廃アルカリ		3	1	0	0
がれき類		11	2	2	1
ガラス陶磁器くず		32	7	10	6
その他		0	0	9	4
収集運搬（運搬のみ）計（m ³ ）		429	100	179	100

（3）廃棄物の処理料金

- ・運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。

（4）許認可一覧

許可証	内容	有効期限	自治体名
一般区域貨物自動車運送事業：札幌自第 2329 号 許可年月日：昭和 50 年 10 月 9 日	貨物輸送		陸運局
産業廃棄物収集運搬業許可番号：第 00110018732 号 許可年月日：平成元年 11 月 14 日	・収集運搬	平成 35 年 2 月 24 日	北海道
特別管理廃棄物収集運搬業許可番号：第 00150018732 号 許可年月日：平成 23 年 3 月 4 日	・収集運搬	平成 35 年 3 月 3 日	北海道
産業廃棄物処分許可番号：第 05120018732 号 許可年月日：昭和 51 年 4 月 28 日	・選別 ・圧縮	平成 33 年 3 月 7 日	札幌市
一般廃棄物収集運搬業許可番号：札幌一廃抜根許可第 9 号 許可年月日：平成 4 年 4 月 1 日	・収集運搬	平成 29 年 7 月 3 日	札幌市
産業廃棄物処分許可番号：第 00120018732 号 許可年月日：平成 28 年 12 月 10 日	・圧縮 ・破碎	平成 33 年 12 月 9 日	北海道

1. HES：産業廃棄物業者システム規格認証登録内容

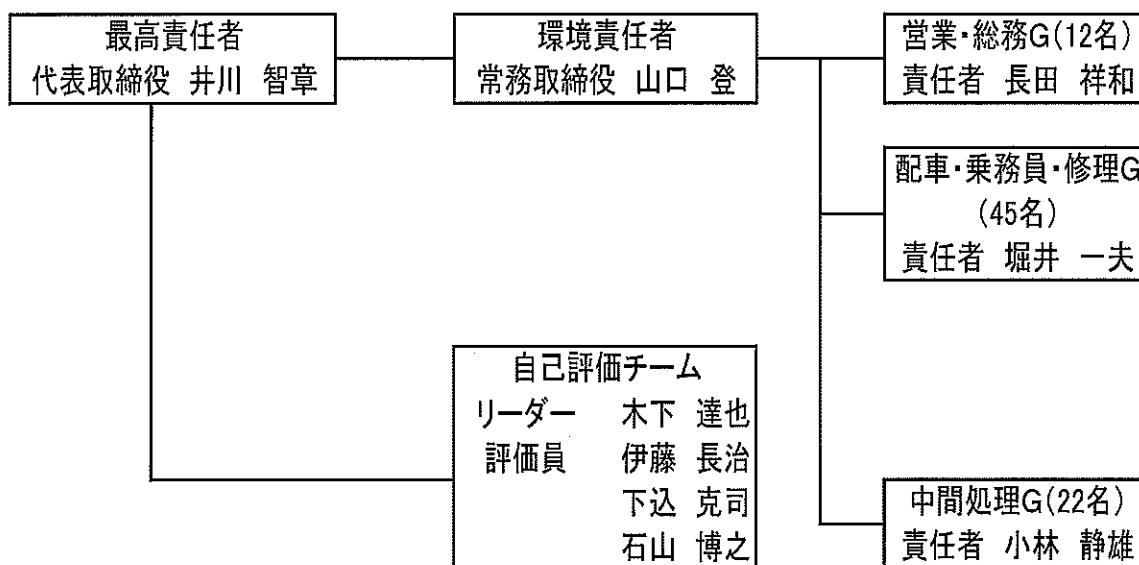
○登録日：2011年12月21日

○有効期限：2017年12月20日

○登録番号：HESW：HESW：0007

○登録範囲：登録組織全域における（産業・一般）廃棄物収集運搬及びリサイクル並びに中間処理にかかる全ての事業活動

2. 環境改善活動の取り組み体制



○ 管理責任者 山口 登 (連絡先:011-874-0570)

○ HES担当者 山口 登 (連絡先:011-874-0570)

3. 環境に関する基本方針

<基本理念>

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。

<方 針>

エコライン株式会社は、産業廃棄物収集運搬及びリサイクル並びに中間処理等、及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に意識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減（電気使用量、車両燃料の削減）
 - (2) 水資源の保全（一般水道水の使用量の削減）
 - (3) 循環型社会への対応（産業廃棄物のリサイクル率の向上）
 - (4) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動できるよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2013年5月10日改定

エコライン株式会社

代表取締役社長 井川 智章

4. 環境目標と実績 (2016年度) 2016/4~2017/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
電気使用量の削減 2016年度までに2010年度比3%の削減	・冷暖房温度の設定 ・休憩時間の消灯 ・不要電源OFFの励行	101,142 kWh/年	97,018 kWh/年	A
水の使用量の削減 2016年度までに2010年度比3%の削減	・車輛洗車時の適正使用 ・節水パーツの利用	593 m ³ /年	702 m ³ /年	C
廃棄物排出量の削減 産業廃棄物リサイクル率の向上 2016年度までに35%（含む輸出）にする 基準年度数値 （2012年度32.3%）	・分別の徹底 ・廃プラ処分内訳見直し	35.0%/年	29.0%/年	C
グリーン購入 低廃出ガス認定かつ燃費基準達成車への入替促進 2016年度目標2台	・トラック2台	2台/年	3台/年	A

※取組スタートは2011/6月

※評価基準 A：達成率100%以上

B：達成率 90%~100%未満

C：達成率 90%未満

追加環境目標と実績 (2015年度) 2015/4~2016/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
軽油使用量の削減 走行1km当たりの使用量を2016年度までに2012年度比1.5%削減する （基準年度2012年度）0.45ℓ/1km	・アイドリング ストップ ・配車高効率確保	0.35 ℓ / km	0.34 ℓ / km	A
ガソリン使用量の削減 営業収入百万円あたりの使用量を2012年度比1.5%削減する （基準年度2012年度15.3ℓ/1百万円）	・アイドリング ストップ ・効率的営業の展開	15.07 ℓ / 百万円	11.75 ℓ / 百万円	A

5. 環境改善活動の評価

【電気使用量の削減】

○本社の空調を電気に移行したことによる使用量増加要因はあったが、省エネ機器への更新・休憩時間の消灯等の日々の細やかな取り組みの定着により計画は達成。

【水の使用量の削減】

○車輛劣化防止を目的とした洗車強化をしていることもあり目標は未達に終わった。効率的・効果的洗車の取組は継続中で使用量は前年比削減出来ており、引き続き削減意識を維持してゆく。

【廃棄物排出量の削減】

○産業廃棄物リサイクル率向上は最重要課題であり、12月オープンの新施設の稼働が未だ軌道に乗らないなか人員が分散されたこともあり一時選別精度が低下しリサイクル率も向上出来なかった。新施設と現施設の連携を良くし選別精度の向上を図るとともに重点課題として廃プラのRPF原料への選別取組みの強化を継続してゆく。

【グリーン購入】

○前年度に4台前倒し購入したこともあるが、今年度は新施設分にて3台購入し、目標はクリアした。

【軽油使用量の削減】

○燃費基準達成車への入替は継続中で、さらにデジタコの有効活用により、適正速度での運行・アイドリングストップに努める。

【ガソリン使用量の削減】

○営業用車両は増加しているが、売上高の維持により目標は達成できた。引き続き効率営業に努める。

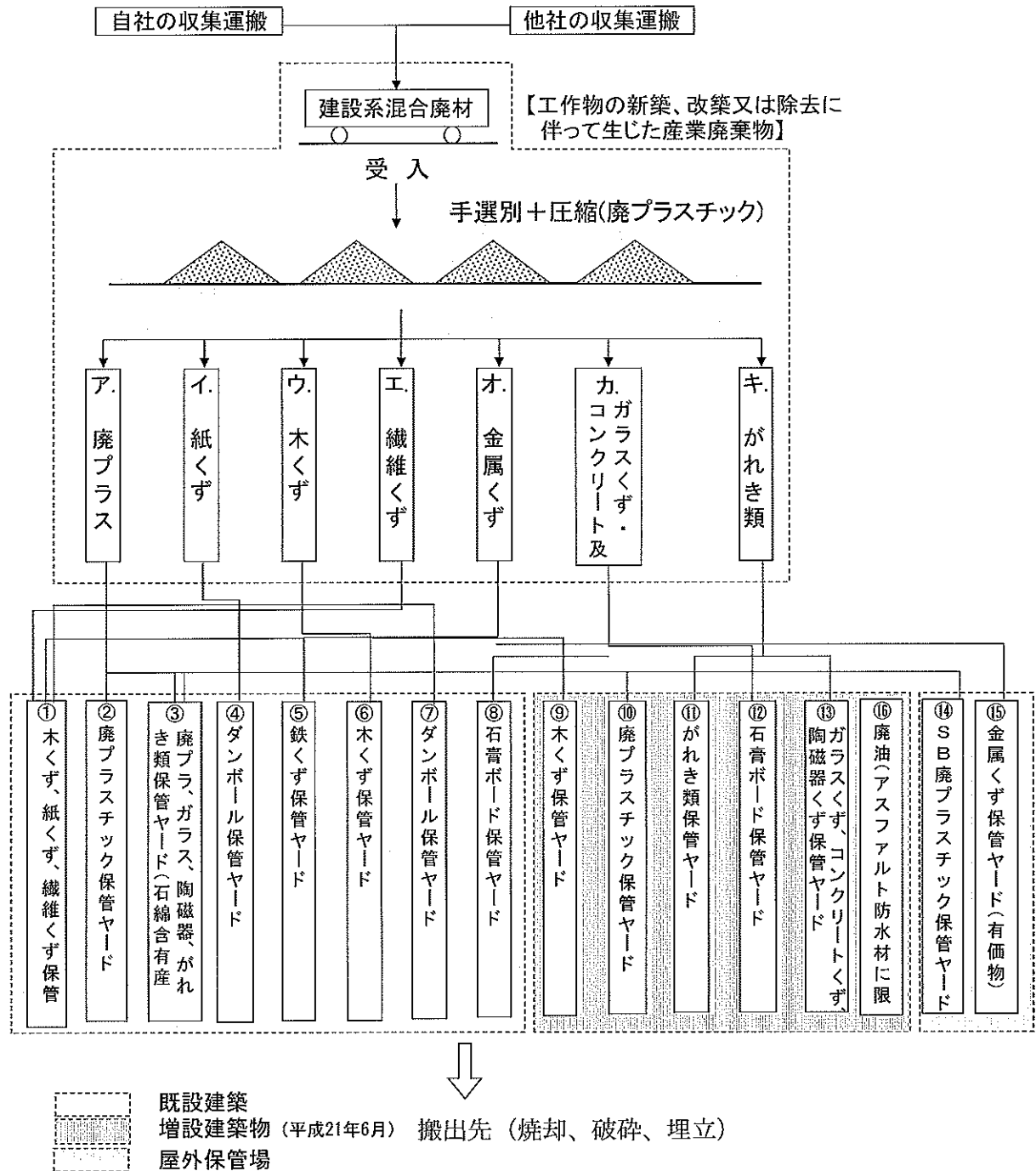
6. 法的及び当社が同意するその他要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認し、利害関係者からの指摘、訴訟等は無かった。

7. 2016年度活動の評価と今後の課題

- 設備の点検・整備に心掛け不要なエネルギー消費を抑制するとともに将来を見据え省エネを意識した設備の維持・更新に心がけてゆく。
- 水の使用量削減については、洗車については車輛劣化防止の側面からは強化せざるを得ないものであり効率的、効果的洗車の実施による節水への意識を一層強化してゆく。車両1台あたりの使用量換算では削減効果は出ている。
- 産業廃棄物のリサイクル率引き上げは重要課題であり、受入増加に対応できる選別体制の構築は引き続き努力してゆくとともに引き続き廃プラからのRPF原料の選別を重点的に強化してゆく。
- グリーン購入については、引き続き経営状況が許す限り継続して取り組んでゆく。
- 在社時間が少ない乗務員への教育機会については月1回の職場会を活用するとともに面談の実施・資料回覧・掲示等で補ってゆく。
- 環境に対する取り組みの必要性などの理解は得られている。

中間処理施設（選別）処理工程図



中間処理施設（破砕・圧縮） 処理工程図（琺瑯リサイクルセンター）

